

かんたん刺しゅう フリーステッチング

使い方説明書 57-413

内容

- 本体
- 針先
- スレダー
- キャップ

はじめる前に用意するもの

- クロバー「フリーステッチングフープ」〈12cm〉または〈18cm〉
- クロバー布用強力ボンド「貼り仕事」
- 糸：25番刺しゅう糸3本取、またはそれに相当する太さのもの

25番刺しゅう糸は、一般的に 細い糸を6本まとめたものが1かせ(糸の束)として売られています。100cm程度に切り、1本ずつ引き抜いた糸を3本合わせて使います。

布：ギョツと織目のつまった中肉～厚手の生地
フープに張れる布のサイズは、〈12cm〉の場合 20cm角以上、〈18cm〉の場合 25cm角以上です。

あると便利な道具
フリーステッチングスタンド(12cm)または(18cm)
フリーステッチングフープをセットすると、机の上に置いたまま刺せます。

1. フリーステッチングニードルの本体に針をセットしましょう

針先

ころがり止め

ステッチの進行方向を示します

針穴

ヨコ穴

つぎ目

カット面

ホルダー

グリップ

ヘッド

セット内容と各部名称

1 ヘッドを固定して持ち、反対の手でグリップを ① の矢印方向にゆるめます。

2 針先をホルダーに ② の矢印方向に差し込みます。ステッチの進行方向を示すため、針先の斜めカット面と、ころがり止めを同じ方向に合わせます。

3 針先のつぎ目を 標準位置 ー 目盛 3 の位置に合わせ、グリップを ① と逆方向にしっかり締めます。(目盛3は針先の標準位置です)

針先の長さ調節

目盛 0 1 2 3 4 5

針先 約1.5cm

つぎ目

左図の5つの目盛それぞれを目安にすることで、ステッチやループの長さの調整ができます。(針先を長くすることで、ループも長くなります)

※ 目盛は0～5の位置の範囲で合わせてください。範囲外でのご使用は針先が外れる恐れがあります。

2. フリーステッチングニードルに糸を通しましょう

スレダーの持ち方

スレダーは先の方を持ち、少しずつ針穴に送ります。

3 ヨコ穴にスレダーを通します。

4

1 スレダーを針穴から入れ、ヘッドからスレダーの先を出します。

2

1 スレダーの先の輪の中に糸を通し、約5cm出しておきます。

2 スレダーをゆっくりと引き抜きます。

3 スレダーからそと糸を引き抜き、針の先端から約5cm糸を出しておきます。

3 針の先端から約3cm糸を出しておきます。

※糸を通した後は、スレダーの先から糸を指で抜いてください。

※糸を通した後は、一度スレダーを戻して刺しゅう糸を整えてください。無理に引き抜くとスレダーが破損します。

3. 図案を写しましょう

チャコピーを使う場合

生地(表)

トレーシングペーパー

チャコピー

セロファン

トレーサー

1 実物大の図案をトレーシングペーパーに写します。

2 生地を表側にトレーシングペーパーに転写した図案のをせ、待針で止めます。

3 生地と図案の間に「クロバーチャコピー(片面)」を転写面を下にしてはさみます。

4 図案の上にセロファンを重ね、「トレーサー」で図案をなぞります。

直接、布に描く場合

生地(表)

水性チャコペン

直接布に、図案を描きます。

「自然に消える」・「水で消える」水性チャコペンで描くと便利です。

4. 生地を張りましょう

生地の張りが弱いとステッチがきれいに刺せません。専用のクロバー「フリーステッチングフープ」をお使いください。

クロバー「フリーステッチングフープ」〈12cm〉・〈18cm〉(別売品)

特長

フープの内枠のエッジが 生地をしっかりとさめます。

生地を引っ張り、ネジを締めるという動作を数回繰り返し、生地をピンと張ります。

生地によって、枠の跡がつく場合があります。ご了承ください。

5. ステッチを刺しましょう

持ち方

糸は押さえせん

ころがり止め

進行方向

ヘッド

ステッチ

カット面

本体のヘッドから出ている糸を、手や物で押さえたり、引っ掛けたりしないでください。ステッチがきれいに刺せなくなります。

1 針先のカット面が進行方向を向くように刺し進めます。(ころがり止めを進行方向の目安にします。手前に向かって進めると刺しやすくなります)

2 針の先端を生地からできるだけ離さず、すべらすように2針目を刺します。

3 そのまま真上に、引き上げます。

4 2～3mmの幅でステッチします。

1～3を繰り返します。

針先の種類ごとのステッチ幅の目安

1本取	3本取	6本取	極太
1～3mm	2～3mm	2～5mm	3～6mm

※ 本品には(3本取)の針先がセットされています。別売品の針先(1本取)(6本取)(極太)もご利用いただけます。

6. 糸始末をしましょう

糸の始末

カット

生地裏側

ボンド

刺し始めと刺し終わりは、他の糸を切らないよう注意して、ギリギリのところまでカットします。(玉止めの必要なし)

その後、裏面をクロバー布用強力ボンド「貼り仕事」(別売品)で刺した糸が抜けかないよう接着します。

クロバー布用強力ボンド「貼り仕事」(別売品)の使用方法

布用強力ボンド「貼り仕事」をステッチ部分(刺しゅうの裏面)に塗り、シリコンペーパーをあて、アイロンをかけて接着します。

いろいろなステッチの刺し方

① バックステッチ風

基本のステッチ

針先のカット面を進行方向に合わせて等間隔で刺します。

② サテンステッチ風

ステッチの間隔を広くします。(5mmぐらいまで)

刺し方のコツ

この刺し方の場合、針先のカット面は同じ向きのまま、ジグザグに刺します。(針先のカット面と、ころがり止めは同じ方向です)

③ ループ

生地の裏面から ①バックステッチ をします。 ※ 図案は裏面に、表裏逆になりますようにします。

図案の外側から内側にかけて、針先のカット面の向きを進行方向に合わせて、等間隔に刺していくとループの長さが揃います。

生地を裏返すと

ループの先をカットすると...

ループの先を長くすると...

ループ

ベルベット調

ループを長くする場合は、針先の長さを長くしてください。(1-3参照)

フリーステッチングのチェックポイント

- ステッチの糸が抜けるときには
- 適した生地を使用していますか?
織目の粗い生地、すべりやすい生地、合成皮革、伸縮する生地は糸が抜けやすくなり向きです。(絹・麻などのすべりやすい生地には、刺しゅう前に生地の裏に布製の接着芯を貼ると糸は抜けにくくなります。)
 - 専用のフープを使用していますか?
生地の張りが弱いと糸が抜けやすくなります。専用のフープをご使用ください。
 - 針先は根元まで刺して、真上に引き上げていますか?(⇒5-1)
 - 針先を生地から離さないようにしていますか?(⇒5-2)
 - 針先のカット面は進行方向に向いていますか?(⇒1-2、5-持ち方)

保管上の注意

- 必ず本体から針先をはずし、キャップをして保管してください。
- 必ずグリップをゆるめた状態で保管してください。(締めた状態で保管すると変形する恐れがあります)

フリーステッチングのコツ

- ステッチの目が浮いたときは
- 裏側から爪で軽くごいて目を整えます。
- 生地を破らないように刺すには
- ステッチの間隔が短くならないように、また、同じ箇所を何度も刺さないようにします。
 - 生地が破れる場合は、針先の太さを細くしてください。(別売品の針先から選んでください)それでも破れる場合は、生地を替えてください。
- ステッチをやり直すには
- 糸を引っ張って抜きます。一度ステッチをした部分は生地が弱り、刺しにくくなっています。違う場所を刺すか、爪で生地の目を揃えてから刺します。また、一度使った糸はステッチのくせがついて刺しにくくなっています。できるだけ新しい糸を使用してください。
- 洗濯するときは
- やさしく手で押し洗いするか、ドライクリーニングしてください。

③ 使い方説明書を無断で複製し配布することを禁じます。

クロバー株式会社
〒537-0025 大阪市東成区中道3-15-5
「お客様係」TEL.(06)6978-2277